

献血の受入れに関する計画について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成29年6月14日(水)

薬事・食品衛生審議会薬事分科会
血液事業部会

はじめに

日本赤十字社においては、将来予測される“輸血用血液製剤の需要の減少”と“分画製剤の国内自給の促進に伴う原料血漿必要量の増加”に対応しつつ、採血規模(献血者数)を安定的に保つことが重要であると考えています。

特に、原料血漿確保に関しては、これまでの「血漿採取量の増量に向けた取り組み」に加え、「献血基準の見直し(血小板採血の血漿採取量の増量)」や「新たな技術導入等」を考慮して、一層の効率化を図っていくことが肝要です。

この新たな原料血漿確保策の段階的な導入と原料血漿の貯留保管期間の短縮を組み合わせて実行することで、血漿採血数を減少させながらも安定的な原料血漿確保が可能となり、ひいては原料血漿価格の低減に繋がると考えます。

これまでの主な取り組み

採血 1 本あたりの血漿
採取量の増加



血漿採血本数の抑制
(コストの削減)

- ① 血漿採血そのものの採取量の増量(体重別の採取量調整)
【H26】 449.3mL/本 → 【H28】 487.8mL/本 → 約 41,100本の削減
- ② 血小板採血から得られる血漿の増量
【H26】 201.1mL/本 → 【H28】 220.5mL/本 → 約 21,600本の削減

新たな原料血漿確保のための方策(案)

- ① 血小板献血の上限血漿採取量の見直しによる血小板献血由来の血漿量増加（確保予定量：4.8万L）
- ② 自動遠心分離装置導入に伴う全血献血由来の血漿量増加（確保予定量：0.9万L）
- ③ FFPLR480製造用の血漿献血の採取量を体重別に調整することで得られる新たな血漿確保（確保予定量：3.5万L）
- ④ 置換血小板製剤導入に伴う血小板献血由来の血漿量増加（確保予定量：9.8万L）

※ 確保予定量については、対応できる採血装置の開発や輸血用血液製剤の需要により増減があることから、最大見込量を記載していること。

※ 「④置換血小板製剤の導入」については、現時点では、10～20分程度の採血時間延長が必要になる及び製品中に大きな凝集塊が見られるといった課題があることから、これらの課題を解決が前提となること。

今後の対応

平成30年度以降の事業計画においては、各種の原料血漿確保策の導入に加え、貯留保管期間の短縮（貯留在庫量の逡減）を実施することで、血漿採血数を抑制し、コスト削減に努めて参ります。

なお、平成30年度の事業を安定的に実施するために、平成29年度においても、血漿採血数の抑制を図っていききたいことから、ご理解いただきますようお願いいたします。

